

式 辞

本日ここに令和 2 度宮崎国際大学卒業式を挙行できますことは大きな慶びであります。

国際教養学部第 24 期生 51 名、教育学部第 4 期生 39 名、卒業生 90 名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また、これまで皆さまを育て、温かく見守ってこられた、オンラインでご参加のご家族の皆さまにも、心からのお祝いを申し上げます。

今日の佳き日を迎え、卒業生の皆さんは、夢を抱いて入学されてからの 4 年間の学生生活が思い出されているのではないのでしょうか。

今年、私たちは新型コロナウイルス感染症拡大のため、全く予想もしていなかった日常を送ることになりました。当然であった対面授業は実施できず、オンライン授業となりました。そして、皆さんが最も苦労したのは、コロナ禍での就職活動でしょう。第一志望の就職先は募集すらなかったという学生もいることと思います。学友と励まし合うこともできず、孤独な闘いに挑んだことと思います。本当によく頑張りました。

令和の時代は、コロナ禍によって、先を見通すことが極めて困難な時代として幕を開けました。誰しもが、グローバル社会は平成の延長線上で益々進展していくと思っていました。しかし、このパンデミックにより、世界中の人々は、立ち止まり、今何を為すべきかと自問の一年を過ごすことになりました。

そのような中、I C T機器の進展によって、時代の流れは大きく変わり、社会全体は新たな方向へと舵をきりました。一方では、海外、都市部、地方の垣根が取り払われ、宮崎にしながら容易に海外や都市部と繋がる事が出来る時代へと変遷しました。また、もう一方では、人と人が対面で実感を持ちながら交流することが絶たれ、パソコンやスマートフォン等、画面越しでのコミュニケーションとなり、その実感のなさに孤独を感じる人も多くいました。

このような発展と困難さという複数の側面を持つであろう時代が、令和の時代です。過去の歴史においても、困難な状況の中で、新たな時代を創り上げることに力を注いだのは、いつの世も若い力であるということを忘れないで欲しいと思います。

本日卒業され、新たな時代を担っていかれる皆さんに、「あなたの花を咲かせて」という話を贈ります。

渡辺和子氏の著書に「置かれた場所で咲きなさい」があります。渡辺氏は、著書の中で、「どんなところに置かれても花を咲かせる心を持ち続けよう」と記しています。

この4年間私たちは、皆さんに多くの学びの種をまきました。創設者大坪久泰先生がまかれたグローバルな学びに加え、多面的思考やこども達の成長を育む学びの種は芽を出しましたか。

皆さんお一人お一人が、これから向かわれるそれぞれの場所で、本学でまかれた学びの種をしっかりと育て、自分らしい花を咲かせる努力をしていかれることを望みます。日照りが続くかもしれません、風雨が続くかもしれません。それでも花を咲かせるという願いと希望を持ち、勇気を持って歩み続けていかれることを願っています。

加えて、あなたの花を咲かせるために、忘れないで欲しいのが、建学の精神「礼節・勤労」です。

「礼節」の精神では、自他の人間性を尊重し、自らを律し、他者の立場に立って物事を考えることを目指してきました。さらに「勤労」の精神では、心身を労して全てのことに積極的に努力することを目指してきました。

異なる文化や背景を持つ方々と協働する中で、自らを律し、他者の立場に立って物事を考え、今できる最善を尽くしてください。同時に自分の命を大切にし、人と人や命と命が繋がっているという、人の痛みを感じることやぬくもりを大切にできる誠実な人であって欲しいと願っています。

国際教養学部の皆さんは、英語によるリベラル・アーツ教育を通して、新時代で活躍するための幅広い知識とクリティカル・シンキング力を身に付けました。

また、教育学部の皆さんは、こども達の瞳が輝くために、子どもたちの心に火をつける教育・保育の在り様を探し続けてきました。

さあ、次なるステージの幕開けです。

新時代は皆さんを待っています。「礼節・勤労」の精神のもと、誠実に日々を積み重ねることは、人や命、ぬくもりへと繋がり、それは、世界平和へと繋がります。

結びに、今日、巣立たれる卒業生の皆さん。本学での学びを地球社会の発展に貢献されますことを期待しております。宮崎国際大学でまかれた学びの種が育ち、与えられた場所で、あなたにしか咲かせられない、あなたの花を色鮮やかに咲かせられますことを祈っております。

志高く、素晴らしい人生を歩んでいかれることを心から願ひまして学長式辞とします。

令和3年3月10日

宮崎国際大学学長 山下恵子